



Linux用のTalend Open Studio for Big Data インスト レーションおよびアップグ レードガイド 7.2.1

目次

Copyright.....	3
Talend Open Studio for Big Data: 前提条件.....	5
インストールの準備.....	5
ハードウェア要件.....	5
ソフトウェア要件.....	7
XULRunnerパッケージのインストール.....	11
JAVA_HOMEの設定.....	11
手動によるTalend Open Studio for Big Dataのインストール.....	13
Talend Studioのインストールと設定.....	13
Talend製品のアップグレード.....	22
環境のバックアップ.....	22
Talend StudioでTalendプロジェクトをアップグレード.....	22
付録.....	23
サポートされる他社のシステム/データベース/ビジネスアプリケーションのバージョン.....	23

Copyleft

7.2.1に対応しており、以前のリリースの更新版となります。

公開日: 2019年6月20日

このドキュメントの内容は公開の時点で正確なものです。

ただし、オンライン([Talend Help Center](#))で最新の更新バージョンが入手できる場合があります。

このドキュメントは、クリエイティブコモンズ公共ライセンス(CCPL)の条件の下で提供されています。

CCPLに準拠した許可事項および禁止事項の詳細は、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.0/>を参照してください。

商標について

TalendはTalend, Inc.の商標です。

すべてのブランド、商品名、会社名、商標、およびサービスマークは各所有者に帰属します。

ライセンス契約

このドキュメントに記述されているソフトウェアは、Apache License、バージョン2.0 (以下「本ライセンス」という)の下でライセンスされています。本ライセンスを遵守せずに、このソフトウェアを使用することはできません。ライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>で取得できます。当該の法律による要求または書面での同意がない限り、本ライセンスの下で配布されるソフトウェアは、「現状有姿」で、明示または暗示にかかわらず、あらゆる保証あるいは条件なしで提供されます。ライセンスの下で許可および制限を適用する特定の言語のライセンスを参照してください。

本製品には、AOP アライアンス(Java/J2EE AOP標準)で開発されたソフトウェア、ASM、Amazon、AntLR、Apache ActiveMQ、Apache Ant、Apache Avro、Apache Axiom、Apache Axis、Apache Axis 2、Apache Batik、Apache CXF、Apache Cassandra、Apache Chemistry、Apache Common Http Client、Apache Common Http Core、Apache Commons、Apache Commons Bcel、Apache Commons Jxpath、Apache Commons Lang、Apache Datafu、Apache Derby Database Engine and Embedded JDBC Driver、Apache Geronimo、Apache HCatalog、Apache Hadoop、Apache Hbase、Apache Hive、Apache HttpClient、Apache HttpComponents Client、Apache JAMES、Apache Log4j、Apache Lucene Core、Apache Neethi、Apache Oozie、Apache POI、Apache Parquet、Apache Pig、Apache PiggyBank、Apache ServiceMix、Apache Sqoop、Apache Thrift、Apache Tomcat、Apache Velocity、Apache WSS4J、Apache WebServices Common Utilities、Apache Xml-RPC、Apache Zookeeper、Box Java SDK (V2)、CSV Tools、Cloudera HTrace、ConcurrentLinkedHashMap for Java、Couchbase Client、DataNucleus、DataStax Java Driver for Apache Cassandra、Ehcache、Ezmorph、Ganymed SSH-2 for Java、Google APIs Client Library for Java、Google Gson、Groovy、Guava:Java、H2 Embedded Database、およびDBCドライバーのためのGoogle CoreLibraries、ヘクター:。Apache Cassandraのための高レベルのJavaクライアント、Hibernate BeanValidation API、Hibernate Validator、HighScale Lib、HsqlDB、Ini4j、JClouds、JDO-API、JLine、JSON、JSR 305: Annotations for Software Defect Detection in Java、JUnit、Jackson Java JSON-processor、Java API for RESTful Services、Java Agent for Memory Measurements、Jaxb、Jaxen、JetS3T、Jettison、Jetty、Joda-Time、Json Simple、LZ4: Extremely Fast Compression algorithm、LightCouch、MetaStuff、Metrics API、Metrics Reporter Config、Microsoft Azure SDK for

Java、Mondrian、MongoDB Java Driver、Netty、Ning Compression codec for LZF encoding、OpenSAML、Paracel JDBC Driver、Parboiled、PostgreSQL JDBC Driver、Protocol Buffers - Google's data interchange format、Resty:Java、Rocoto、SL4Jのための単純なHTTP RESTクライアント:Java用のシンプルなLogging Facade、SQLite JDBC Driver、Scala Lang、Simple API for CSS、Snappy for Java a fast compressor/decompressor、SpyMemCached、SshJ、StAX API、StAXON - JSON via StAX、SuperSCV、The Castor Project、The Legion of the Bouncy Castle、Twitter4J、Uuid、W3C、Windows Azure Storage libraries for Java、Woden、Woodstox: 高パフォーマンスのXMLプロセス、Xalan-J、Xerces2、XmlBeans、XmlSchema Core、Xmlsec - Apache Santuario、YAML parser and emitter for Java、Zip4J、atinject、dropbox-sdk-java: Dropbox Core API用のJavaライブラリ、google-guice。。各ライセンスの下でライセンスされています。

Talend Open Studio for Big Data: 前提条件

インストールの準備

ソフトウェアパッケージ

このページでは、Talend製品をインストールする際にダウンロードが必要なソフトウェアパッケージについて詳しく説明します。

このページの

- YYYYMMDD_HHmmはパッケージのタイムスタンプ、
- A.B.Cは、パッケージのバージョン番号(メジャー、マイナー、パッチ)にそれぞれ対応していません。

ソフトウェアモジュールはすべて同じバージョン/リビジョンにする必要があります。これは、両方のクライアント側とサーバー側の両方でYYYYMMDD_HHmmとA.B.Cが一致する必要があることを意味しています。

手動インストールソフトウェアパッケージ

ファイル名	説明
Talend-Studio-YYYYMMDD_HHmm-VA.B.C.zip	Studio IDE (GUI) このページ からダウンロードできます。

コミュニティとサポート

Talendインストールのヘルプおよびサポートを得るための方法がいくつかあります。

- [公式のTalendドキュメント](#)。ここでは、Talend製品のインストールと使用に役立つあらゆるものを見つけることができます。
- [Talendコミュニティ](#)。ここではコミュニティに向けて質問をし、回答を得ることができます。

ハードウェア要件

Talend製品をインストールする前に、使用しているマシンがTalendによって推奨される以下のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

メモリおよびディスク使用量は、目的のTalendプロジェクトのサイズや特性によって大きく異なります。ただし、多くの変換コンポーネントがジョブに含まれる場合は、次の推奨事項を基に、サーバーに割り当てるメモリの合計量をアップグレードすることを検討して下さい。

メモリ使用量

Product	クライアント/サーバー	メモリ要件 (推奨最小メモリ)	メモ
Talend Studio	クライアント	3GB - 4GB	

注：モジュール上で実行されているプロセスの数によっては、利用可能なメモリを増やす必要があります。同じホストに複数の製品がインストールされている場合、Talendでは、8論理プロセッサのi7 CPUを使用することを推奨しています。

ディスク容量要件

Product	クライアント/サーバー	インストールに必要なディスク容量	使用に必要なディスク容量
Talend Studio	[Client] (クライアント)	3GB	3+GB

Unixシステムでのulimit設定

TalendサーバーモジュールとUnixシステムのパフォーマンスを改善するには、ユーザーまたはグループの必要に応じてシステムリソース(ulimit)を設定します。これらの設定は/etc/security/limitsファイルで定義します。

ulimit構文

```
ulimit <limit type> <item> <value>
```

ulimitには、ハードとソフトという2つのタイプがあります。

- ソフトリミットは有効なリソース制限です。ユーザーはソフトリミットをハードリミットの値まで上げることができます。
- ハードリミットは最大のリソース制限です。この値はスーパーユーザーが設定します。この値を超えることはできません。

注：

リミットのタイプを指定しない場合は、ハードリミットタイプがデフォルトで使用されます。

以下のulimit設定は、Talendのデプロイにとって重要です。

アイテム	説明	フラグ	値
fsize	最大ファイルサイズ	-f	KB
nofile	オープンファイルの最大数	-n	
stack	最大スタックサイズ	-s	KB
cpu	最大CPU時間	-t	分

アイテム	説明	フラグ	値
nproc	プロセス/スレッドの最大数	-u	

注：

使用できる全てのulimit設定をリスト表示するには、次のコマンドを使用します:`ulimit -a`

サンプル

```
ulimit -H -n 2000
```

このコマンドにより、プロセスごとのオープンファイルのハードリミットが2000に設定されます。

ulimit設定の完全な詳細は、『[SS64 reference guide for ulimit](#)』を参照して下さい。

ソフトウェア要件

互換性のあるオペレーティングシステム

このページでは、Talend製品用に推奨およびサポートされるオペレーティングシステムについて詳しく説明します。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きでサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Talend Studio

サポートタイプ	オペレーティングシステム(64ビット)	
推奨	Linux	Ubuntu 18.04 LTS
	Windows	Microsoft Windows 10
サポート	Linux	Ubuntu 16.04 LTS
		Red Hat Enterprise Linux Server/ CentOS 6 / 7
	Windows	Windows Server on AWS 2012 / 2016 (RTM)
	Mac	Apple macOS 10.13/High Sierra

サポートタイプ	オペレーティングシステム(64ビット)	
		Apple macOS 10.12/Sierra
非推奨	Windows	Microsoft Windows 7 Professional

互換性のあるJava環境

次の表は、Talend製品を使用するためにダウンロードしてインストールすべき推奨Java環境に関する情報を示しています。

Compiler Compliance Levelは、ジョブコード生成に使用されるJavaバージョンに対応します。このオプションは、Studio環境設定で変更できます。詳細は、『Talend Studioユーザーガイド』を参照して下さい。

注：全てのTalend製品および、Hadoopクラスターなどの関連するサードパーティアプリケーションは、コンプライアンスのために同じJavaバージョンを使用する必要があります。Talendでは、関連するサードパーティアプリケーションをインストールまたはアップグレードする前に、サポートされているJavaバージョンを確認することを推奨しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きでサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Studio Java環境

サポートタイプ	JREバージョン	メモ
推奨	OpenJDK 8	推奨されるディストリビューション: Zulu
推奨	Oracle 8	Studio JDKコンパイラー準拠レベル 1.8 (デフォルト)
サポート	OpenJDK 11	推奨されるディストリビューション: Zulu
サポート	Oracle 11	Studio JDKコンパイラー準拠レベル11 (デフォルト)

互換性のあるアーティファクトリポジトリ

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能なサポートされるアーティファクトリポジトリに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。

- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きでサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

サポートタイプ	アーティファクトリポジトリ
推奨	Artifactory 6.8
サポート	Sonatype Nexus 2.15 / 3.15
制限付きでサポート	Sonatype Nexus 3.9 <ul style="list-style-type: none"> • Nexus 3.9ではいくつかの問題が発生することがあります。その場合、TalendではNexus 3.15へのアップグレードをお勧めします。

互換性のある実行サーバー

次の互換性マトリクスを使用して、実行サーバーのバージョンとTalend Administration Center、Talendコマンドライン、およびTalend Studioのバージョンとの間に互換性があることを確認します。

このセクションに記載されている情報は公開日当日には有効ですが、後日変更される場合があることにご注意ください。

ジョブサーバー(Talend JobServerおよび Talend Runtimeのジョブサーバー)

		ジョブサーバー	ジョブサーバー	ジョブサーバー	ジョブサーバー	ジョブサーバー	ジョブサーバー	ジョブサーバー
	[Version] (バージョン)	6.2.x	6.3.x	6.4.x	6.5.x	7.0.x	7.1.x	7.2.x
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	6.2.x	✓						
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	6.3.x	✓	✓					

	[Version] (バージョン)	ジョブ サーバー	ジョブ サーバー	ジョブ サーバー	ジョブ サーバー	ジョブ サーバー	ジョブ サーバー	ジョブ サーバー
		6.2.x	6.3.x	6.4.x	6.5.x	7.0.x	7.1.x	7.2.x
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	6.4.x	✓	✓	✓				
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	6.5.x	✓	✓	✓	✓			
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	7.0.x	✓	✓	✓	✓	✓		
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	7.1.x	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
Talend Administration Center, TalendコマンドラインおよびTalend Studio	7.2.x	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

警告：

Talend Administration CenterでSSLとトークン認証をアクティブ化する場合は、SSL /トークン認証をサポートするジョブサーバーのみ使用できます。この場合、Talend Administration Centerは暗号化された通信をサポートしない古いジョブサーバーを監視することができません。

Talend JobServerのSSLおよび認証の設定の詳細は、Talend Help Center(<https://help.talend.com>)のConfiguring SSL transport and authenticationを参照して下さい。

XULRunnerパッケージのインストール

LinuxでStudioを実行するにはXULRunnerパッケージが必要です。推奨されるXULRunnerパッケージバージョンはXULRunner v 1.9.2.28です。

サポートされているバージョンはv1.8.x - 1.9.xおよびv3.6.xです。

手順

1. [この場所](#)からXULRunner v1.9.2.28をダウンロードします。
2. Studioアーカイブを展開したディレクトリでアーカイブファイルを展開します。ただし、Studioフォルダー内には展開しないで下さい。
3. Linuxアーキテクチャに対応するStudio.iniの最後に以下の行を追加します:
`-Dorg.eclipse.swt.browser.XULRunnerPath=</usr/lib/xulrunner>`
`</usr/lib/xulrunner>`はXULRunnerのインストールパスを示しています。

例

たとえば、ユーザーのホームディレクトリーの/home/<user>/Talend/下のディレクトリーにStudioを展開した場合は.iniファイル以下のように追加します:
`-Dorg.eclipse.swt.browser.XULRunnerPath=/home/<user>/Talend/xulrunner/`

JAVA_HOMEの設定

Talend製品がマシンにインストールされているJava環境を使用するには、JAVA_HOME環境変数を設定する必要があります。

手順

1. Javaがインストールされているフォルダーを見つけます。
 たとえば、以下のようにします:
 - /usr/lib/jvm/java-x-oracle
 - /usr/lib/jvm/zulu-8/bin
2. 端末を開きます。
3. exportコマンドを使用して、JAVA_HOMEおよびPath変数を設定します。

たとえば、以下のようにします:

- ```
export JAVA_HOME=/usr/lib/jvm/jre1.8.0_65
export PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
```
- ```
export JAVA_HOME=/usr/lib/jvm/<zulu_jdk>
export PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
```

4. 上記の行を、`/etc/profile`ファイルのグローバルプロファイル、または`~/.profile`ファイルのユーザープロファイルの最後に追加します。

ファイルを変更した後に、再度ログオンする必要があります。

手動によるTalend Open Studio for Big Dataのインストール

Talend Studioのインストールと設定

アーカイブの解凍

手順

1. [このページ](#)から製品をダウンロードして下さい。
2. 展開します。

メモリー設定とJVM設定の編集

Talend Studioの実行時および起動時にパフォーマンスを向上させるため、次の手順を実行します。`.ini`のメモリー設定を編集することができます。

手順

1. `TOS_BD-linux-gtk-x86_64.ini` ファイルを編集します。
2. メモリー属性を編集します。たとえば、以下のようにします:

```
-vmargs -Xms512m -Xmx1536m -XX:MaxMetaspaceSize=512m
```

ヒント: 大きなプロジェクトでは、`Xmx`を4096mに増やす必要があります。

詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/java/hotspotfaq-138619.html>を参照して下さい。

Talend Studioの起動

手順

`TOS_BD-linux-gtk-x86_64`実行可能ファイルをダブルクリックしてTalend Studioを起動します。

`TOS_BD-linux-gtk-x86.sh`ファイルを使用して、ターミナルからTalend Studioを起動することもできます。

必要に応じて、次のコマンドで実行権限を追加します。

```
chmod +x TOS_BD-linux-gtk-x86.sh
```

外部モジュールのインストール

Talend Studioでは、特定のサードパーティJavaライブラリまたはデータベースドライバー(`.jar`ファイル)がソースおよびターゲットに接続するようにインストールする必要があります。

外部モジュールと呼ばれるこれらのライブラリーまたはドライバーは一部のTalendコンポーネント、一部の接続ウィザード、またはその両方で必要とされる場合があります。ライセンスの制限により、Talendは特定の外部モジュールの一部をTalend Studioに同梱できない場合があります。Studioを適切に動作させるには、これらをインストールする必要があります。

警告：ここで `-Dtalend.disable.internet` パラメーターがStudioの `.ini` ファイル内に存在せず、`false` に設定されていることを確認します。

外部モジュールをインストールするタイミング

外部モジュールのインストールが必要なタイミングとインストールすべき外部モジュールについては、Talend Studioに示されます。

お使いのTalend Studioには、必要な外部モジュールが複数の方法で示されます。

- **[Additional Talend packages]** (Talendパッケージの追加)ウィザードは、Studioの機能を利用するためにインストールする必要のある追加パッケージ(外部モジュールを含む)がある場合に、Talend Studioの起動時に開きます。

ヒント： **[Additional Talend packages]** (Talendパッケージの追加)ウィザードは、Studioのメニューから**[Help] (ヘルプ) > [Install Additional Packages] (追加パッケージのインストール)**を選択して開くこともできます。

- デザインワークスペースで、コンポーネントの動作に外部モジュールのインストールが必要な場合、このコンポーネントには赤色のインジケータが表示されます。エラーインジケータにマウスポインターを合わせると、ツールチップのメッセージによって、そのコンポーネントが動作するために必要な外部モジュールが示されます。
- 1つまたは複数の外部モジュールが必要なコンポーネントの**[Basic settings]** (基本設定)ビューまたは**[Advanced settings]** (詳細設定)ビューを開くと、外部モジュールに関する主要情報が表示され、そのとなりに**[Install]** (インストール)ボタンが表示されます。**[Install]** (インストール)ボタンをクリックすると、ウィザードが開き、インストール対象の外部モジュールが示されます。
- **[Modules] (モジュール)**ビューには、インストールが必要なJavaライブラリとドライバーを含め、Studioが正常に動作するために必要なすべてのモジュールがリスト表示されます。


デザインワークスペースに**[Modules] (モジュール)**ビューが表示されていない場合は、**[Window] (ウィンドウ) > [Show View...] (ビューの表示...) > [Talend]**と選択し、リストから**[Modules] (モジュール)**を選択します。


Status	Context	Module	Description	Requir...
Not insta...	tJasperOutput	batik-xml-1.7.jar	Required for using this component.	<input checked="" type="checkbox"/>
Not insta...	tJasperOutputExec	batik-xml-1.7.jar	Required for using this component.	<input checked="" type="checkbox"/>
Installed	tCloudStart	bcprov-jdk16-1.46.jar	Required for using this component.	
Installed	tCloudStop	bcprov-jdk16-1.46.jar	Required for using this component.	
Installed	plugin:bcprov	bcprov_1.51.0.jar		
Installed	tESBConsumer	bcprov_1.51.0.jar	Required for using this component.	
Installed	tESBConsumer	bcprov_1.51.0.jar	Required for using this component.	<input checked="" type="checkbox"/>
Installed	tRESTClient	bcprov_1.51.0.jar	Required for using this component.	
Installed	tRESTClient	bcprov_1.51.0.jar	Required for using this component.	<input checked="" type="checkbox"/>
Not insta...	tBonitaInstantiat...	bonita-client-5.2.3.jar	Required for using this component.	
Not insta...	tBonitaDeploy	bonita-client-5.2.3.jar	Required for using this component.	
Not insta...	tBonitaInstantiat...	bonita-client-5.3.jar	Required for using this component.	

このビューで:

[Status] (ステータス)

モジュールがシステムにインストールされているかどうかを示します。

 アイコンは、このカラムに表示された対応するコンポーネントまたはメタデータ接続に対してこのモジュールが必要とは限らないことを示しています。

 アイコンは、対応するコンポーネントまたはメタデータ接続に対してこのモジュールが必須であることを示します。

[Context] (コンテキスト)

モジュールを使用するコンポーネントまたはメタデータ接続の名前を示します。このカラムが空の場合は、そのモジュールがTalend Studioの使用全般に必要なことを意味します。

[Module] (モジュール)

モジュールの正確な名前を示します。

[Description] (説明)

モジュール/ライブラリが必要な理由について説明します。

[Required](必須)

選択したチェックボックスは、モジュールが必要であることを示します。



最新のモジュールインストールステータスを反映するために、このビューを更新します。

共同作業の場合、1人のユーザーのStudioに必要なモジュールがインストールされると、他のユーザーは[Modules] (モジュー

ル)ビューを更新して、このモジュールを自分のStudioに追加できます。

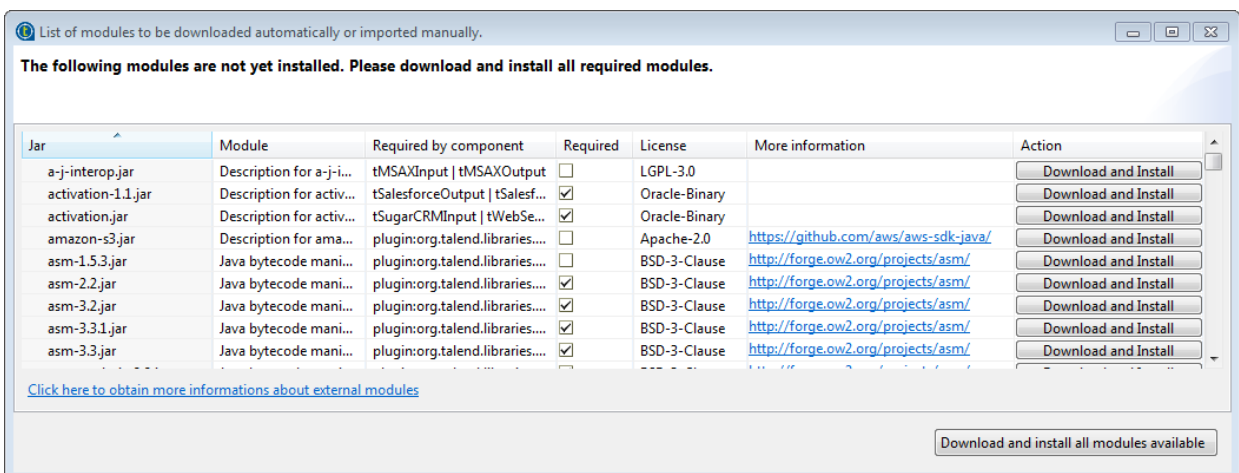


ダウンロード済みの外部モジュールをStudioにインストールすることができます。詳細は、[\[Modules\] \(モジュール\)ビューを使用して外部モジュールを手動でインストールする \(19ページ\)](#) を参照して下さい。



Jarダウンロード/インストールウィザードが開き、Studioに統合されていないすべての必要な外部モジュールがリスト表示されます。

- Jarインストールウィザードは、以下の場合に表示されます。
 - **[Palette] (パレット)**からコンポーネントをドロップした際に、そのコンポーネントを動作させるために必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
 - Studioのメタデータ接続セットアップウィザードの**[Check] (チェック)**ボタンをクリックした際に、接続に必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
 - コンポーネントの**[Component] (コンポーネント)ビュー**で**[Guess schema] (スキーマの推測)**ボタンをクリックした際に、そのコンポーネントを動作させるために必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
 - 1つまたは複数の必須外部モジュールが不足しているコンポーネントの**[Basic settings] (基本設定)**または**[Advanced settings] (詳細設定)ビュー**の上部で **[Install] (インストール)**をクリックした場合。
 - 1つまたは複数の必須外部モジュールが不足しているコンポーネントまたはメタデータ接続が関連するジョブを実行した場合。
 - **[Modules] (モジュール)ビュー**の ボタンをクリックした場合。



このウィザードには:

- インストールが必要な外部モジュールと、それらの使用を許可するライセンスがリスト表示されます。
- ダウンロード可能な有効なWebサイトのURLが示されます。

- TalendのWebサイトで入手可能なすべてのモジュールをダウンロードし、自動的にインストールする機能があります。
- **[Action]** (アクション)カラムに示されているリンクに従って、TalendのWebサイトでは入手できないモジュールをダウンロードし、Studioに手動でインストールする機能があります。

外部モジュールを必要とするコンポーネントのドロップ、接続の設定、またはデータベースのスキーマの推測を行う際に、TalendのWebサイトでJarファイルとダウンロードURLのどちらも利用できない場合は、Jarインストールウィザードは表示されません。ただし、**Error Log** (エラーログ)ビューに、該当するモジュールのダウンロードURLが利用できなかったことを示すエラーメッセージが表示されます。自分で検索してダウンロードし、手動でStudioにインストールすることができます。

ヒント: タブシステムに**[Error Log]** (エラーログ)ビューを表示するには、**[Window]** (ウィンドウ) > **[Show views]** (ビューの表示)を選択し、**[General]** (一般)ノードを展開して**[Error Log]** (エラーログ)を選択します。

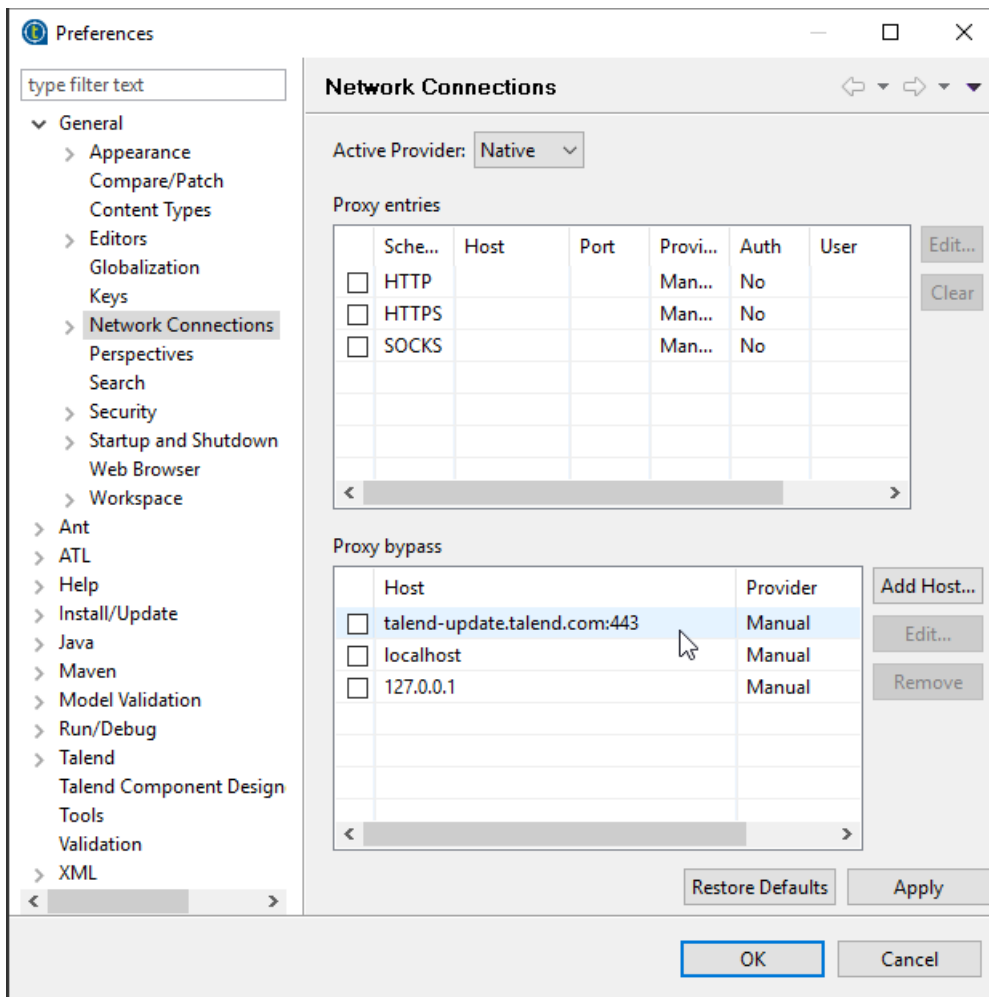
Studio内から外部モジュールをインストールする

外部モジュールのほとんどは、Talend Studioに提供されているウィザードを使用してダウンロードし、自動的にインストールすることができます。

始める前に

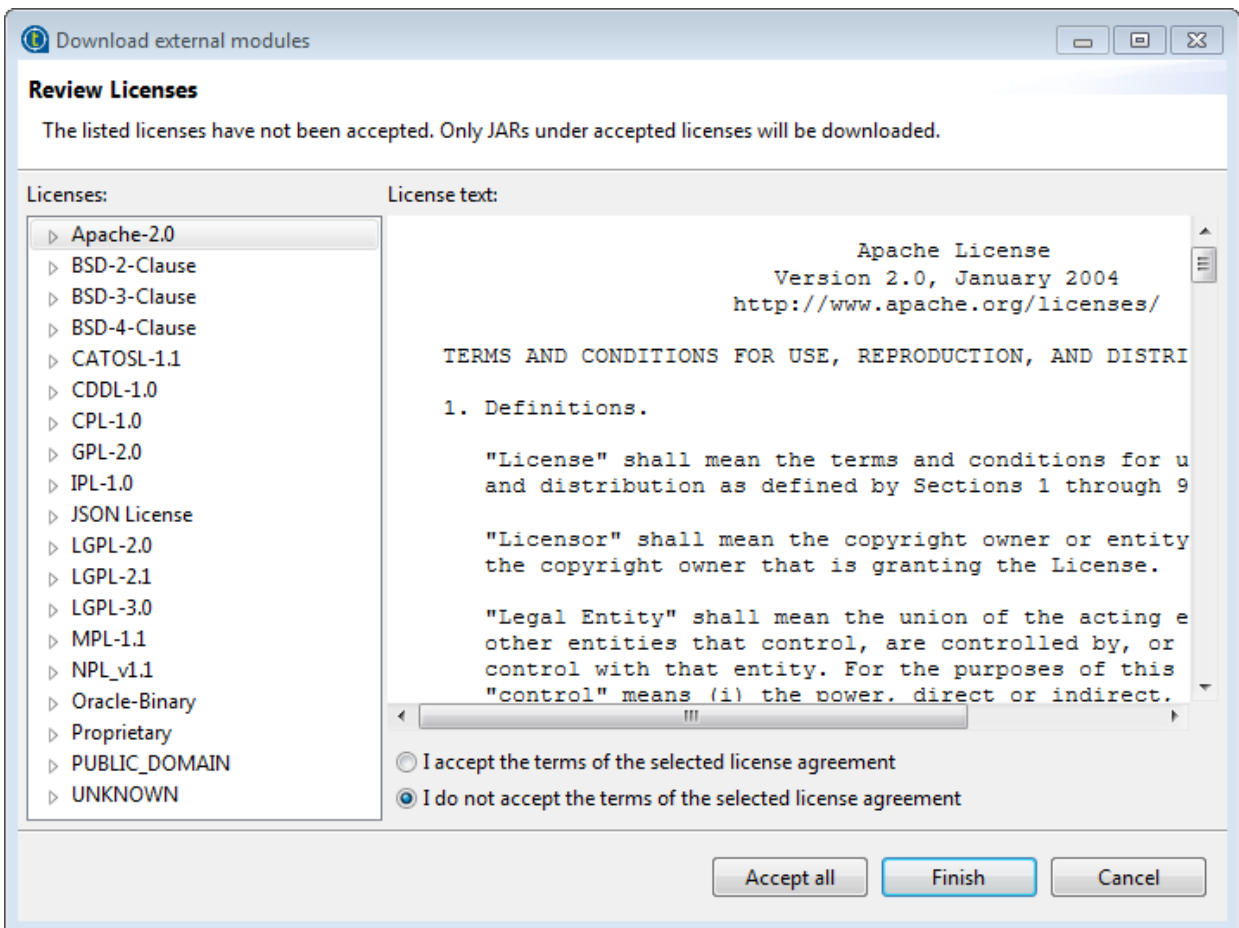
Talend Studioにセキュリティで保護されたインターネット接続があることを確認して下さい。

ネットワークプロキシを使用して作業する場合は、プロキシが正しく設定されていることを確認し、Webサイト<http://talend-update.talend.com>とポート443をホワイトリストに追加します。プロキシ設定を開くには、メニューで**[Window]** (ウィンドウ) > **[Preferences]** (環境設定)を選択して**[Preferences]** (環境設定)ウィンドウを開き、**[General]** (全般設定)ノードを展開して**[Network Connections]** (ネットワーク接続設定)をクリックします。



手順

1. 次の手順に従って[**Download external modules**] (外部モジュールのダウンロード)ダイアログボックスを開きます。
 - [**Additional Talend Packages**] (Talendパッケージの追加)ウィザードで[**Required third-party libraries**] (必須のサードパーティライブラリ)または[**Optional third-party libraries**] (オプションのサードパーティライブラリ)チェックボックスをオンにして、[**Finish**] (終了)をクリックします。
 - Jarインストールウィザードで、[**Download and Install**] (ダウンロードとインストール)ボタンをクリックして特定のモジュールをインストールするか、または[**Download and install all modules available**] (全てのモジュールをダウンロードおよびインストール)ボタンをクリックして利用可能な全てのモジュールをインストールします。



2. 利用条件に同意してダウンロードとインストールを開始します。

- 特定のライセンスで提供されている外部モジュールをダウンロードしてインストールするには、**[Licenses](ライセンス)**ペインから該当するライセンスを選択します。利用条件を確認して**[I accept the terms of the license agreement](使用許諾契約書の条件に同意します)**オプションを選択し、**[Finish](終了)**をクリックします。
- 一覧のすべてのライセンスで提供される、すべての外部モジュールをダウンロードしてインストールするには、**[Accept all](すべて同意)**ボタンをクリックします。

タスクの結果

インストールが完了すると、選択した外部モジュールがTalend Studioにインストールされ、それらのモジュールを必要とするTalend Studioのフィーチャーが使用できるようになります。


[Modules] (モジュール)ビューを使用して外部モジュールを手動でインストールする

外部モジュールがダウンロード済みの場合は、Talend Studioに手動でインストールすることができます。

始める前に

Oracle 9i用のJDBCドライバーをTalend Studioにインストールする場合は、最初にファイル名をojdbc14.jarからojdbc14-9i.jarに変更します。

手順

1. **[Modules]** (モジュール)ビューの右上またはJarインストールウィザードにある  ボタンをクリックして、ローカルファイルシステムを参照します。
2. システムの**[Open]** (開く)ダイアログボックスで、インストールするモジュールの場所に移動し、.jarファイルをダブルクリックするか、このファイルを選択して**[Open]** (開く)をクリックし、Talend Studioにインストールします。

タスクの結果

ダイアログボックスが閉じ、選択したモジュールが現在のTalend Studioのライブラリフォルダーにインストールされます。

Talend Webアプリケーション用に外部モジュールを手動でインストールする

Talend Webアプリケーションを使用するために必要なモジュールの一部はTalend Webサイトでは入手できませんが、外部のWebサイトから直接ダウンロードすることができます。ダウンロードしたら、これらのモジュールは特定のフォルダーに配置する必要があります。

手順

- Talend MDM Serverの場合は、ダウンロードしたOracle用およびMySQLデータベース用のJDBCドライバーを次のフォルダーに配置します。
`<TomcatPath>/webapps/talendmdm/WEB-INF/lib`
- Talend Administration Centerの場合は、ダウンロードしたモジュールを以下のフォルダーに配置します。
`<TomcatPath>/webapps/org.talend.administrator/WEB-INF/lib`

Studioのインターネットアクセスを無効にする

このタスクについて

Talend Studioのインターネットアクセスを無効にするには、Studioの.iniファイルを編集します。

警告: これは、カスタムコンポーネント、サードパーティのライブラリ、その他をダウンロードしてインストールするためにインターネットにアクセスする必要がない場合にのみ行って下さい。

手順

1. オペレーティングシステムに対応するStudioの.iniファイルを開き、次の行を追加します:

```
-Dtalend.disable.internet=true
```

2. Talend Studioを再起動します。
再起動すると、Studioには以下が表示されません:
 - ツールバー上の**Exchange**リンク

- **[Preferences] (環境設定)**ダイアログ内の**Talend > Exchange** ノード
- **[Additional Packages] (追加のパッケージ)**ダイアログボックス内のサードパーティライブラリをインストールするオプション
- ようこそ画面の**[Talend News] (Talendニュース)**リンク

Talend製品のアップグレード

環境のバックアップ

Talendソリューションの移行を開始する前に、お使いの環境が正しくバックアップされていることを確認します。


環境のバックアッププロセスには、以下の必須のステップが含まれます:

注: これらのステップは、通常、次の順序で完了する必要があります。

1. ローカルプロジェクトの保存。 [ローカルプロジェクトの保存](#) (22ページ) を参照して下さい。

ローカルプロジェクトの保存

手順

1. スタジオを起動します。
2.  アイコンをクリックし、ローカルプロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートします。

Talend StudioでTalendプロジェクトをアップグレード

ローカルプロジェクトのインポート

手順

1. インストールした新しいTalend Studioを起動します。
2. ログインウィンドウで、**[Import]** (インポート) を選択し、ローカルプロジェクトが含まれるアーカイブファイルをインポートします。

タスクの結果

ローカルプロジェクトが **[Project]** (プロジェクト) リストと、の Talend Studio **[Repository]** (リポジトリ) ビューに表示されます。

ローカルプロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートする方法の詳細は、 [ローカルプロジェクトの保存](#) (22ページ) を参照して下さい。

付録

サポートされる他社のシステム/データベース/ビジネスアプリケーションのバージョン

このドキュメントは、Talend Studioでサポートされるシステム、データベース、またはビジネスアプリケーションのバージョンについて説明します。

Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、およびビジネスアプリケーション

システム、データベース、およびビジネスアプリケーションへのアクセスは、使用しているStudioによって異なります。

システム/データベース	バージョン	OS	メモ
Access	2003 2007	Windows	Java 8を使用する場合、汎用照合モードのみがサポートされます。
Amazon Aurora	Amazon Aurora MySQLエディションv5 (MySQL 5.6 / 5.7)		
Amazon RDS for Microsoft SQL Server	N/A		
Amazon Redshift	Amazon Redshiftの初期リリース	N/A	
AS/400	V7R1からV7R3 (非推奨バージョン: V5R2からV6R1)	N/A	
Bonita	6.5.2 7.2.4 7.9.0 (非推奨バージョン: 5.2.3 / 5.3.1 / 5.6.1 / 5.10.1)	N/A	
Cassandra	3.0から3.4 (非推奨バージョン: 1.1.2 / 1.2.2 / 2.0.0)	Windows + Linux	
CouchBase	5.x 6.0 (非推奨バージョン: 2.0 / 4.x)	Windows	
CouchDB	1.0.2	Windows	
DB2	10.5	N/A	

システム/データベース	バージョン	OS	メモ
汎用データベース	ODBC	Windows	
DynamoDB	指定したバージョンがありません	N/A	
Elasticsearch	5.6.x 6.4.x (非推奨バージョン: 2.3.x)	N/A	
EXASolution	6.0 以前	Windows	
Excel	N/A	N/A	
eXist-db	1.4.0	N/A	
FireBird	2.1から3.0	Windows + Linux	
FTP	N/A		
Greenplum	4.3.x 5.x (非推奨バージョン: 4.2.1.0)	Windows(クライアントのみ)+Linux	
Hbase	N/A		
HDFS	N/A		
Hive	N/A		
HSQLDb	1.8.0から2.4	N/A	
IBM DB2およびIBM DB2 Z/OS	10.5 11.1 (非推奨バージョン: 10.1)	Windows + Linux	
Impala	N/A		
Informix	11.50	Windows + Linux	
Ingres	10.2 11 (非推奨バージョン: 9.2)	Windows + Linux	
Interbase	(非推奨バージョン: 7以降)		
JavaDB	6	Windows + Linux	
JDBC	N/A		
JSON	N/A		

システム/データベース	バージョン	OS	メモ
Kafka	0.8.2.0 0.9.0.1 0.10.0.1 1.1.0	Windows + Linux	Kerberos kinitオプションとKerberos keytabオプションは両方ともTalend Studioのサポート対象です。Kafkaコンポーネントでサポートされているセキュリティオプションは、 Talend Help Center を参照して下さい。
LDAP	バージョン制限なし	Windows + Linux	
MapRDB	N/A		
MarkLogic	V9	N/A	
MaxDB	7.6	N/A	
Microsoft AX	Dynamics AX 4.0 Dynamics AX 2012	N/A	
Microsoft CRM	2011 2015 2016	N/A	
Microsoft CRM Online	2011 2016 2018	N/A	
Microsoft SQL Server	2014から最新バージョン	Windows + Linux	Microsoft SQL Serverのサポートは、Microsoft SQL JDBCドライバーによって提供されます。詳細は、 Download Microsoft JDBC Driver for SQL Server のページを参照して下さい。
MongoDB	3.6.x 4.0.x (非推奨バージョン: 2.5.x / 2.6.x / 3.0.x / 3.2.x / 3.4)	Windows + Linux	

システム/データベース	バージョン	OS	メモ
MySQL	MySQL 5.x MySQL 8.x MariaDB Amazon RDS Google Cloud SQL (非推奨バージョン: MySQL 4)	Windows + Linux	
MOM	N/A		
Neo4j	1.x.x 2.x.x / 2.2.x / 2.3 3.2.x 3.5.x	Linux	
Netezza	7.0.x 7.1.x 7.2.x	Windows + Linux	
NetSuite	2018 非推奨バージョン: 2014/2016	Windows + Linux	
OleDb	2000 2003 2005 2007 2010	N/A	
Oracle	Oracle 12cリリース1 Oracle 12cリリース2 Oracle 18c (非推奨バージョン: Oracle 8i / 9i / 10g / 11g)	Windows + Linux	
ParAccel	3.1 3.5	N/A	
PostgreSQL	11 9/9.xよりも前 9.x 10.x Amazon RDS Google Cloud SQL	Windows + Linux	
PostgresPlus	9 / 9.xよりも前 9.x	Windows + Linux	

システム/データベース	バージョン	OS	メモ
Red Hat BRMS	6.1	Windows + Linux	
RESTサービス	N/A	Windows + Linux	
Sage X3	N/A		
Salesforce	V44以前	Windows + Linux	
SAP	4.6		
SAP Business Suite (ERP)	Netweaver: 7.3から7.5 ERP6.0、EhP6からEhP8	Windows	
SAP Business Warehouse (BW)	Netweaver: 7.31から7.5	Windows	
SAP HANA	バージョン制限なし	Windows	SAP JDBCドライバー 経由でサポート
SAS	9.1 9.2	Windows + Linux	
SOAPサービス	N/A		
SQLite	3.6.7	Windows + Linux	
Sqoop	N/A		
SugarCRM	5.2	Windows + Linux	
Sybase	12.5 12.7 15.2 15.5 15.7 16.0	Windows + Linux	
SybaseIQ	12.5 12.7 15.2 16.0	Windows + Linux	
Teradata	12 13 14 15 16	Windows + Linux	
VectorWise	2	Windows + Linux	

システム/データベース	バージョン	OS	メモ
Vertica	9.0.x (非推奨バージョン: 3から7.1.x)	Windows + Linux	
VtigerCRM	Vtiger 5.0 Vtiger 5.1	N/A	

Talendメッセージングコンポーネントでサポートされているメッセージングブローカー

Component (コンポーネント)	サポートされているメッセージングブローカー/標準
tJMSInput tJMSOutput	JMS Standard 1.1
tMicrosoftMQInput tMicrosoftMQOutput	MicrosoftMQ 3.0
tMomInput tMomOutput	JBoss Messaging 1.4.4 WebSphere MQ 8.0 ActiveMQ 5.13.2